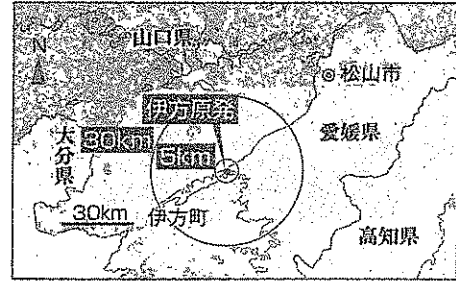


事故の不安から早く解放して



伊方再稼働に反対

松山市 2800人集う

7月にも狙われている四国電力伊方原発（愛媛県伊方町）の再稼働に反対する集会が23日、松山市の城山公園で開かれ、県内外から約2800人が参加しました。

「伊方原発の50年沖に活



集会中、「原発再稼働ゆるさん!!」の紙を掲げる参加者。23日、松山市

断層があるだけでない。地震はいつ、どこで起こるか予測がつかない」とめる会の草薙順一事務局長はいさつで、原発の過酷事故への不安を語り、「原発を廃炉にし、私たちを不安の奴隷から一日も早く解放してほしい」と訴えました。

伊方原発が建つ佐田岬半島で長年、トンネルを掘ってきた大塚和義さん（85）は「岩盤がもろく、崩落する。山が動く現場だった」と証言。国などが示す避難計画は机上の空論だと告発しました。

日本共産党の藤野保史政策委員長・衆院議員と社民党の吉川元・衆院議員が激励。藤野氏は「安倍政権の原発政策は破綻している。原発から撤退すべきだ」と訴えました。

参院愛媛選挙区の小路きゆき候補らも参加し、繁華街などをデモ行進しました。

高知県の町の丸井美恵子さん（67）は「今回の地震で、原発は絶対に止めなければとさらに思いを強くして来た。再稼働なんてもってのほか。何かが起こる前に廃炉にすべきだ」と話しました。